

ちょっと聞かせて♪
まちかどインタビュー

入笠湿原の美しい自然を次の時代へ。

「入笠ボランティア協会」



入笠湿原でのボランティア活動

「入笠ボランティア協会」
〈事務局〉伊藤高明さんに伺いました

「入笠ボランティア協会」とは、どんな団体ですか？

湿原の自然環境を保全する活動を行っています。今年度の会員数は172名。3分の1は富士見町を含む県内、ほかは東京など県外の方です。具体的にとどのような活動をしていますか？

湿原は自然のままに任せておけば、いずれは草原化し、やがて森林化していつてしまします。

「入笠ボランティア協会」を立ち上げて今年で11年目になります。会員の皆さんと雑草や外来植物の草取りをして、湿原の草花が生育しやすい環境を整えたり、侵出して

きた木を伐採したりと、今に残されている湿原の環境を維持する活動を続けています。

活動の中で感じる課題などはありますか？

やはり、初期からの会員の皆さんの高齢化ですね。私たち自身も若い時のようには動けなくなりまして、活動をはじめた頃のような情熱を維持し続けるのは大変なことです。

いろんなボランティア団体を見ても、積極的に動いてくれている世代は、主に60〜70代の方が多い。次の世代にどうつないでいくか、会員数の維持だけでなく若返りも重要な課題です。

町に対する要望は？

役員のなり手がなく、私たちも団体を維持するための事務作業に追われて、体を動かす時間が制限されてしまっているのが現状。このあたりを助けていただけたら。

行政は行政、ボランティアはボランティアで、できることにはどちらも限界があります。行政はハード面の整備、ボランティアはその維持管理と、それぞれに得意な部分での役割分担が必要ではないでしょうか。意見交換の中から汲みあげてもらうえればと思います。

議会傍聴記

“二元代表制”という言葉がどのくらい浸透しているでしょうか？ 今回の一般質問の中では、この単語が何回もやりとりされました。事の経過を知らない一般町民には内容がよくわからず、また、このことに関する議論が何か町民益につながるものであったかは、はなはだ疑問に思います。

議員の皆さんが気負って大上段に構えていた割には、その中身は一般町民の理解を得るとか、訴えるというところから大きく離れていたように感じたのは、傍聴席の中で私だけだったでしょうか。少しでも地方自治に関心を持っている人ならば、議会と理事者側との立場の違いや、やっっていいこと悪いことは、まさに“常識”の範疇です。もちろん周囲に疑義を持たせるような言動は慎まねばなりません。貴重な本会議の時間ですから、議会の身内同士のことでなく、もっと町民の方を向いた、開かれた議論を望みます。

議場の外にも目を向け、議会としての報告会を各地区でこまめに開くなど、議会活動の内容をわかりやすく町民に伝え、関心を高めてもらうことに、さらに注力されることを期待します。

(匿名)

編集後記

議員任期は5月で折り返しとなり、議会内人事が改選となりました。議案を細かく審査するための2つの常任委員会は、いずれも同じメンバーでの再スタートです。

2つの常任委員会を1回ずつ経験することも可能なのですが、今回のような改選結果となったのは、町の様々な課題に対して、「自らの専門性を高めたい」という思いの現れだったのかもしれない。ならば、その選択がきちんと町民利益につながる議会となるよう、我々が一丸となって取り組むことこそ、負託への最大の答えではないかと思うのです。

(宮下伸悟)

〈富士見町議会へご意見をお寄せください〉

【No.130】平成25年7月15日発行

発行：富士見町議会／編集：議会広報編集委員会
委員長 佐久祐司 副委員長 宮下伸悟
委員 小池勇 平出隼仁

〒399-0292

長野県諏訪郡富士見町落合10777

TEL:0266-62-9403 / FAX:0266-62-9320

E-mail:gikai@town.fujimi.lg.jp

印刷 (有)富士見印刷